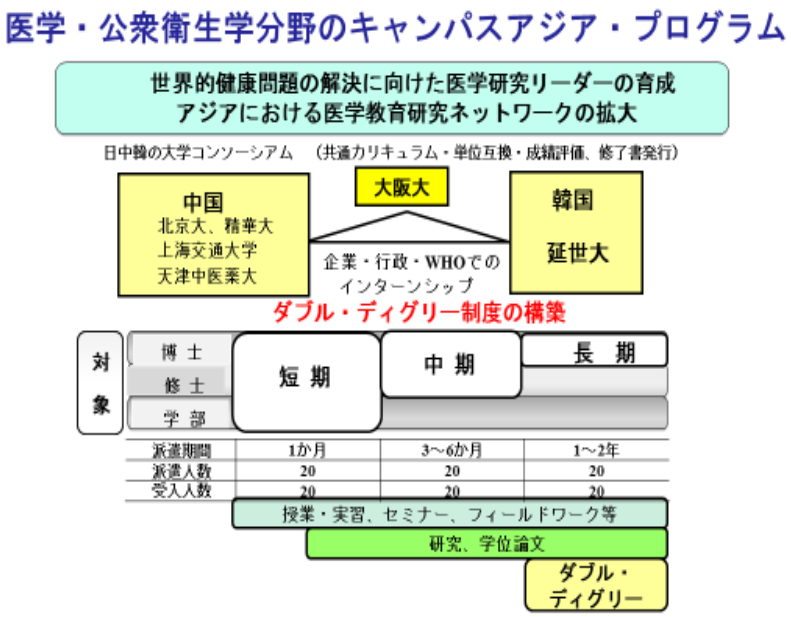
大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択） 大阪大学　取組概要

【事業の名称】（選定年度28年度・（タイプA-②　CAMPUS Asia））
世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム

【事業の概要】



【交流プログラムの概要】
本事業は、医学・公衆衛生学分野において、世界的健康問題である生活習慣病、認知症、老化関連疾患の予防・制御に関する世界的な研究者を、日中韓のキャンパスアジア・コンソーシアムにより組織的に育成する取組である。短期・中期・長期の多層的交流プログラムと博士課程大学院でのダブル・ディグリーを目指した教育プログラムにより、将来、自国の大学の教員にとどまらず、他国の参加大学やその他の研究大学の教員、日中韓の公的研究所や国内外の健康関連企業の研究者、国内の行政機関やWHO等の国際行政機関の構成員の育成を目指す。これらの人材は、同窓会等を通じてグローバルなネットワークを組み、特に東アジアにおける健康問題の解決にあたることが期待される。東アジアでの健康問題の解決は、次いで少子高齢化が進むとされる中央アジアやアフリカ諸国においても応用できる。

【本事業で養成する人材像】
世界的健康問題を解決する医学、公衆衛生学領域でのグローバルリーダー研究者

【本事業の特徴】
大阪大学は、生活習慣病、認知症の基礎・臨床・公衆衛生学研究において世界トップクラスの実績をあげており、国民皆保険制度のもとで中年期における生活習慣病の減少、健康寿命の延伸を実現した。中国の参加大学は、大阪大学と同様、老化制御に関する基礎研究や新規漢方薬有効成分の探索において、韓国の参加大学は、国民総背番号制度の基に大規模な疫学研究とそれを進める上での研究倫理に関してトップクラスの研究を進めている。日中韓の3か国は、仏教、儒教等の影響を強く受けながら、欧米とは異なる独自の文化を育んできたため、東アジアのトップクラスの大学のコンソーシアムを形成することで、これらの3か国の特性と共通点を生かして教育研究の相乗効果を図る。学生は、欧米の直線的な論理思考能力を理解・体得しながらも、調和性・包括性・融合性の観点や柔軟な思考能力を有する、問題解決型の医学研究グローバルリーダーとなることが期待される。

【交流予定人数】
＜タイプA－②＞

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C 4 K 1	C 6 K 4	C 10 K 5	C 10 K 5	C 10 K 5
中国(C)での受入	J 4 K 0	J 6 K 0	J 10 K 0	J 10 K 0	J 10 K 0
韓国(K)での受入	J 1 C 0	J 4 C 0	J 5 C 0	J 5 C 0	J 5 C 0

1. 取組内容の進捗状況（平成28年度）

【大阪大学】

【事業の名称】（選定年度28年度・（タイプA-②　CAMPUS Asia ））
世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム

■　交流プログラムの実施状況

〈プロジェクトリーダーの挨拶〉

〈国際シンポジウム〉

〈国際教員会議〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

＜タイプA－②＞

	H28
日本(J)での受入	C 3 K 2
中国(C)での受入	J 4 K 0
韓国(K)での受入	J 1 C 0

○　日本人学生の派遣　5人

○　外国人留学生の受入　5人

■　質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

国際教員会議にて、学生のサポートに加え、単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセスを各国、各大学の状況に沿って、合意形成に向けて共通の基準を議論した。国際教員会議・国際シンポジウム・各研究教室でのセミナーを通じて、教員の交流を行った。ダブル・ディグリーに関しては、博士課程の履修期間の中で相手先の大学に留学し、授業・実習、研究、学位論文の指導を二国間の大学教員が行い、大学間で合意した基準を満たした場合に学位を授与する方針を固めた。

〈大学間協定・覚書の締結〉

■　外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

受入・派遣には、キャンパス・アジア事務局を設置し、英語・中国語・日本語が堪能な特任研究員を1名（平成29年度に特任教員となる予定）、英語でのコミュニケーションがとれる事務補佐員1名を配置し、留学前の情報提供、申請、日程調整、選考等に関わる留学支援業務等を行った。また事務局のもとに、留学生サポートセンターを開設し、英語の堪能な事務補佐員を置いて、留学中の詳細な情報提供、相談、安全管理等を行った。日本人学生の留学生サポーターもそれらの業務を補助した。これらの支援は、本プログラムのHP（日本語、英語）、メール、電話、面談等を通じて行った。　留学生の居住スペースは、受け入れ教室において確保した。

■　事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

平成29年3月15-17日に大阪大学で開催した国際教員会議、国際シンポジウム、各教室のセミナーにおいて、参加大学のプログラム担当教員らが、各大学のカリキュラム、シラバス、単位、修了要件に関する情報を交換し、本プログラムの計画・取組状況・成果・課題について発表と議論を行った。国際シンポジウムは、学生、教員、企業、行政機関の関係者も参加し、本事業の周知の契機となった。事業の成果の普及のため、これらの活動はHPに公開した。

■　グッドプラクティス等

①　11月　本事業の教員体制の形成
②　12月　キャンパス・アジア事務局、留学生サポートセンターの設置
③ 12-3月　プログラム実施ガイドライン案の作成と改訂
④ 12-1月　派遣学生の書類・面接試験の実施・認定・派遣、受入学生の書類選考・認定・受入
⑤　1-3月　事業HPの準備と開設
⑥　3月　国際教員会議、国際シンポジウム、研究教室セミナーの開催
⑦　3月　シラバスの草案の作成開始
⑧　3月　平成29年度の事業計画の立案・確認・承認
⑨　3月　外部評価委員会の設置
⑩　3-5月　留学終了者の報告会の開催・発表、英文報告書、留学先の教員評価等による成績判定
⑪　3-5月　報告書の作成と公開

2. 取組内容の進捗状況（平成29年度）　【大阪大学】

【世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム】
（選定年度28年度・タイプA-② CAMPUS Asia）

■ 交流プログラムの実施状況

〈 プロジェクトリーダーからの挨拶 〉

〈 国際シンポジウム 〉

〈 学生交流：北京大学 〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 外国人留学生の受入

	H29
日本(J)での受入	C 11 K 6
中国(C)での受入	J 7 K 1
韓国(K)での受入	J 7 C 16

〈受入・派遣大学〉
中国：北京大学、清華大学、
　　天津中医薬大学、上海交通大学
韓国：延世大学校

○ 日本人学生の派遣

	H29
中国(C)への派遣	J 7
韓国(K)への派遣	J 7

大阪大学からの派遣は、14名（短期：約1ヶ月は13名、中期：約3ヶ月は1名）であった。受入は17名（短期：12名、中期：5名）であった。中国・韓国の大学の日本人以外の外国人留学生の受入は、中国1名、韓国16名であった。

〈 5大学　7機関とのMOU締結 〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

H29年度には、延世大学校・天津中医薬大学とのダブル・ディクリー・プログラムの協定締結を行い、単位互換・学位取得制度の整備を進めた。加えて、H28年度にMOU締結を行った5大学のうち、2大学と追加協定を締結し、連携研究組織を増やした。教育の質の保証に関して、キャンパス・アジアプログラム（以下CA）では、各受入研究室の指導教員による評価と、留学期間中の学生の自己評価を行っている。大阪大学全体ではGPA制度の導入と共に、履修状況の客観的な把握、世界基準に則った評価制度の整備・運用を進めている。また、国際公募ガイドラインを策定し、外国人教員の積極的な採用と、各部局でのファカルティデベロップメント（FD）を実施している。

〈 2大学とのDDP締結 〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生の受入についてはCA留学生サポートセンターを設置し、英語・中国語が堪能な特任准教授、特任助教と、英語でのコミュニケーションのとれる事務補佐員2名を配置し、受入準備期間から、個別支援、カウンセリング、安全管理を行っている。加えて、各留学生に対して、留学生サポーター（TA）を選定し、受入期間前・中・帰国後も個別の対応を行っている。日本人学生の派遣に際しては、CA留学生サポートセンターが、きめ細やかな個別対応（電話・メール・web通信）等を行い、十分な情報提供を行うとともに、個別相談、サポート、安全管理を行っている。さらに医学系研究科12教室において学生の受入および派遣の支援体制を整備し、当研究科の多様な基礎・臨床研究室において、学生の交換留学を実施しており、学生の修学・研究の状況の把握を定期的に行っている。参加大学の留学生サポートセンターでも、担当教員から定期的に情報収集を行い留学生をサポートしている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況　情報の公開、成果の普及

海外の交流大学と大阪大学のキャンパス・アジア事務局が連携する体制が整い、国際教員会議と参加大学の教員による3日間の国際シンポジウムを昨年度に引き続き実施した。国際教員会議においては、本プログラムの次年度の実施計画・取組状況・成果・課題について、参加大学のプログラム担当教員等が具体的な発表・議論を行った。国際シンポジウムでは、アジアのトップ大学としての最先端の研究成果の報告を行い、各大学の研究者と、受入のパートナー研究室との間では交流留学や共同研究の打合わせを行った。情報公開として、本プログラムをHPで公開するとともに、国内外の大学・研究機関、企業、行政機関の学生、教員、行政職員、一般人に国際シンポジウムの周知を行い、学内外から3日間で200名以上の参加を得た。また派遣受入留学生の同窓会を発足し、グローバルなネットワークを通した東アジアにおける健康問題の解決に向けた人材育成を進める体制を整えた。今後、同窓生交流の促進が期待される。医学領域において我が国初の博士課程ダブルディグリープログラム（DDP）を延世大学校と天津中医薬大学と協定締結し、平成30年度から運用を開始する。加えて北京大学・上海交通大学とのDDP協定を進めている。

■ グッドプラクティス等

平成29年8月6日～26日　日中韓・国際ワークショップ（延世ワークショップ）開催
平成30年3月7日～9日　キャンパス・アジア国際シンポジウム　開催
平成30年3月7日～9日　国際教員会議　開催
平成30年3月8日　キャンパス・アジア同窓会開催
平成30年3月9日　外部評価委員会　開催

通年　本事業の教員体制の整備・拡充
通年　キャンパス・アジア事務局、留学生サポートセンターの運用
通年　事業HPの改訂・充実（日本語、英語）
通年　シラバス・単位互換の改訂
通年　派遣学生の試験の実施・認定・派遣
　　受入学生の書類選考・認定・受入
通年　留学終了者の報告会の開催・発表、英文報告書提出
　　留学先の教員評価等による成績判定・単位認定
通年　教員による相手校での集中講義及び学生指導

3. 取組内容の進捗状況（平成30年度）

【大阪大学】

【世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム】
（選定年度28年度・（タイプA-②　CAMPUS Asia）

■　交流プログラムの実施状況

〈平成30年度 国際シンポジウム：天津中医薬大学〉

〈延世大学校サマーワークショップ〉

〈延世大学校ソーシャルイベント〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○　日本人学生の派遣

医学部および医学系研究科の学生を対象に中国・韓国の協定校へ派遣した。派遣学生の選考は書類審査および英語による面接を課しており、プログラム開始の平成28年度から毎年目標人数を達成し年々増加している。平成30年度までは短期・中期派遣を中心とした研究交流であったが、令和元年よりダブル・ディグリープログラム（以下DDP）として大阪大学から北京大学へ1名、延世大学校へ1名の派遣が決まっている。

○　外国人留学生の受入

中国・韓国の各大学において厳選な審査を通過した学生に対して、大阪大学で書類選考を行い学生を受け入れた。平成30年度は留学生のニーズに沿った教育研究プログラムの拡充を目指し、基礎医学、臨床医学の教室にて学生を受入れ学習・研究機会の充実を図った。さらに大阪大学では1週間につき1単位を付与し、留学期間終了時に修了証、成績証明書を発行した。令和元年よりDDPとして大阪大学では、北京大学から1名、延世大学校から1名の学生受入が決まっている。

＜タイプA－②交流人数＞

	H30
日本(J)での受入	C　11 K　4
中国(C)での受入	J　7 K　1
韓国(K)での受入	J　10 C　8

〈大阪大学での発表会後の交流〉

■　質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

年1回の国際シンポジウムおよび国際教員会議が天津中医薬大学、北京大学にて開催され、単位の相互認定、成績管理、短・中期交流学生への修了証発行等に関する協議・確認を行った。さらに、交流プログラムの自己評価と継続的な質の向上を図るため、3カ国共通の評価票を用いた参加学生からの意見聴取・自己評価、担当教員によるレビュー・評価の実施を協議し、承認された。教育の質の保証に関しては、引き続き大阪大学全体ではGPA制度の導入と共に、履修状況の客観的な把握、世界基準に則った評価制度の整備・運用を進めている。また、国際公募ガイドラインを策定し、外国人教員の積極的な採用と、各部局でのファカルティデベロップメント（FD）を実施している。

〈平成30年度 国際教員会議：北京大学〉

■　外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

大阪大学キャンパス・アジア（以下CA）事務局では、英語・中国語が堪能な教職員を配置しており、派遣・受入学生に対して準備期間を含めた留学期間において面談やメール等できめ細やかな個別サポートを行っている。また、中国、韓国のCA事務局および担当教職員との密な連携・情報共有により、学生への充実した学習機会の提供と安全管理を継続している。大阪大学では大学院医学系研究科の基礎・臨床・社会医学13講座の研究分野が連携した留学プログラムの実施に向けた協力体制を構築し、受入学生の学習・研究ニーズに応じた学習環境の整備を進めた。

■　事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

平成30年度は、大阪大学にて北京大学および延世大学との学生交流会を2回開催し、英語による医学・公衆衛生学分野の講義に加え、学生によるプレゼンテーションに対して相手校の教員による学生指導・評価を行う等、日中韓のコンソーシアムによる、組織的な医学研究のグローバルリーダー育成に向けた取組を行ってきた。天津中医薬大学および北京大学で開催された国際シンポジウムでは、各大学のプログラム進捗状況の報告を行い情報共有を行った。CA同窓会では留学中の学習・研究成果の報告や留学後のキャリアプランについて同窓会会員よりプレゼンテーションが行われた。情報公開として、本プログラムの進捗状況や留学希望の学生向けに留学プログラムの募集情報をHPにて公開した。

■　グッドプラクティス等

日中韓の各大学参加による国際教員会議やWeb会議等により、DDPに関する単位互換や成績管理、シラバス等の協議・合意形成を行い、質の保証を伴う大学間交流の枠組形成がなされた。加えて、本プログラムの人材育成像に合致したコアコンピテンシーを策定し、これを満たすための学習支援体制・研究環境の整備・拡充を進めた。平成29年度に発足した同窓会交流を促進し、国際的な人的ネットワークの充実・拡大を進めた。

4. 取組内容の進捗状況（令和元年度）

【大阪大学】

【世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム】
（選定年度28年度・（タイプA-②　CAMPUS Asia）

■　交流プログラムの実施状況

〈令和元年度 国際シンポジウム：延世大学校〉

〈キャンパスアジア同窓会　優秀発表授与式〉

〈ウインターワークショップ：延世大学校〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○　日本人学生の派遣

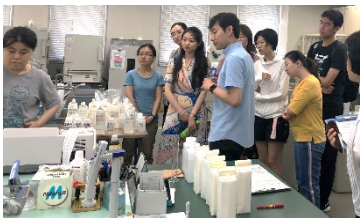
医学部および医学系研究科の学生を対象に中国・韓国の協定校へ派遣した。派遣学生の選考は書類審査および英語による面接を課しており、プログラム開始の平成28年度から毎年目標人数を達成し年々増加している。平成30年度までは短期・中期派遣を中心とした研究交流であったが、令和元年より中国・韓国初のダブル・ディグリープログラム（以下DDP）として大阪大学から北京大学へ1名、延世大学校へ1名の派遣を実施し、学位取得のための単位取得プログラムを開始した。

○　外国人留学生の受入

中国・韓国の各大学において厳選な審査を通過した学生に対して、大阪大学で書類選考を行い学生を受け入れた。平成30年度は留学生のニーズに沿った教育研究プログラムの拡充を目指し、基礎医学、臨床医学の教室にて学生を受入れ学習・研究機会の充実を図った。さらに大阪大学では履修単位を付与し、留学期間終了時に修了証、成績証明書を発行した。令和元年度より日本初のDDPとして大阪大学では、北京大学から1名、延世大学校から1名の学生受入を行い、医学博士取得のDDPプログラムを本格的に開始した。

＜タイプA－②交流人数＞

	R1
日本(J)での受入	C　13 K　13
中国(C)での受入	J　8 K　6
韓国(K)での受入	J　6 C　24



〈サマーワークショップ　藤井寺保健所見学〉

〈サマーワークショップ　送別会〉

■　質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

年1回の国際シンポジウムおよび国際教員会議が延世大学校にて開催され、単位の相互認定、成績管理、短・中期交流学生への修了証発行等に関する協議・確認を行った。さらに、交流プログラムの自己評価と継続的な質の向上を図るため、3カ国共通の評価票を用いた参加学生からの意見聴取・自己評価、担当教員によるレビュー・評価の実施を協議し、承認された。教育の質の保証に関しては、引き続き大阪大学全体ではGPA制度の導入と共に、履修状況の客観的な把握、世界基準に則った評価制度の整備・運用を進めている。また、国際公募ガイドラインを策定し、外国人教員の積極的な採用と、各部局でのファカルティデベロップメント（FD）を実施している。

■　外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

大阪大学キャンパス・アジア（以下CA）事務局では、英語・中国語が堪能な教職員を配置しており、派遣・受入学生に対して準備期間を含めた留学期間において面談やメール等できめ細やかな個別サポートを行っている。また、中国、韓国のCA事務局および担当教職員との密な連携・情報共有により、学生への充実した学習機会の提供と安全管理を継続している。大阪大学では大学院医学系研究科の基礎・臨床・社会医学13講座の研究分野が連携した留学プログラムの実施に向けた協力体制を構築し、受入学生の学習・研究ニーズに応じた学習環境の整備を進めた。

■　事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

大阪大学にて北京大学および延世大学校との学生交流会を2回開催し、英語による医学・公衆衛生学分野の講義に加え、学生によるプレゼンテーションに対して相手校の教員による学生指導・評価を行う等、日中韓のコンソーシアムによる、組織的な医学研究のグローバルリーダー育成に向けた取組を行ってきた。国際シンポジウムでは、各大学のプログラム進捗状況の報告を行い情報共有を行った。CA同窓会では留学中の学習・研究成果の報告や留学後のキャリアプランについて同窓会会員よりプレゼンテーションが行われた。情報公開として、本プログラムの進捗状況や留学希望の学生向けに留学プログラムの募集情報をHPにて公開した。

■　グッドプラクティス等

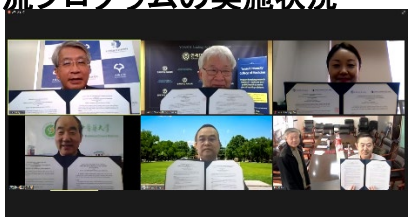
日中韓の各大学参加による国際教員会議やWeb会議等により、DDPに関する単位互換や成績管理、シラバス等の協議・合意形成を行い、質の保証を伴う大学間交流の枠組形成がなされた。加えて、本プログラムの人材育成像に合致したコアコンピテンシーを策定し、これを満たすための学習支援体制・研究環境の整備・拡充を進めた。平成29年度に発足した同窓会交流を促進し、国際的な人的ネットワークの充実・拡大を進めた。

5. 取組内容の進捗状況（令和2年度）

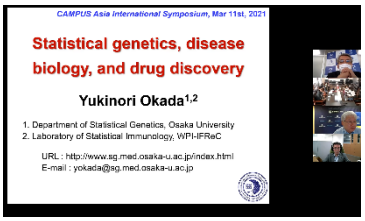
【大阪大学】

【世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム】
（選定年度28年度・（タイプA-②　CAMPUS Asia））

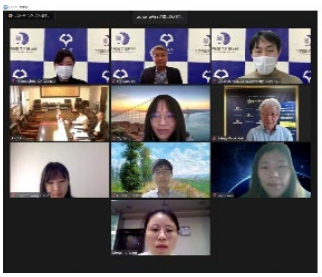
■ 交流プログラムの実施状況



〈令和2年度 オンライン国際シンポジウム
協定更新：大阪大学〉



〈令和2年度 オンライン国際シンポジウム
：大阪大学〉



〈キャンパスアジア同窓会　研究発表〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

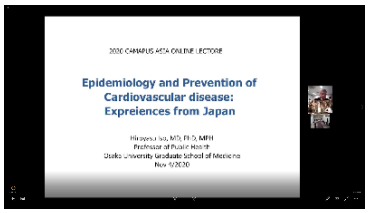
短期・中期の留学に関して、感染症流行の影響を受け全面的にオンラインでの交流に切り替えた。11月に開催した「Aging in Asia : Medical and Public Health Challenges from the global perspectives」では大阪大学より9名の学生の参加者があり、日中韓各大学の教員が講義を行いグループワークを通して学生同士の交流を行った。また、3月には国際シンポジウムを開催し、5名の学生の参加があった。令和元年度より医学系研究科のダブルディグリープログラム（以下DDP)として大阪大学から北京大学へ1名、延世大学校へ1名のDDP学生を派遣し、令和2年度は引き続き単位修得の支援や論文執筆に向けた指導を行った。

＜タイプA－②交流人数＞

	R2
日本(J)での受入	C 36 K 5
中国(C)での受入	J 9 K 5
韓国(K)での受入	J 9 C 36

○ 外国人留学生の受入

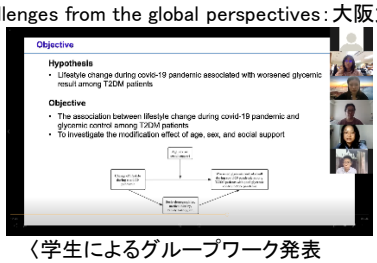
短期・中期の留学は、感染症流行の影響を受け、オンラインでの交流に切り替えた。「Aging in Asia : Medical and Public Health Challenges from the global perspectives」では、北京大学6名、清華大学14名、延世大学校4名、天津中医薬大学12名、上海交通大学2名が出席し、講義受講とグループワークを通して学生交流と教育を行った。また、３月には国際シンポジウムを開催し、13名の学生の参加があった。令和元年度より公衆衛生学教室では北京大学、医の倫理と公共政策学教室では延世大学校からのDDP学生を1名ずつ受け入れている。研究室に配属された留学生は、日本人学生と同じ環境のもとで教育・研究活動ができるよう英語による講義やプログラムを提供している。感染症流行下においても、単位取得のための支援と論文執筆指導を継続して行っている。



〈Aging in Asia：Medical and Public Health Challenges from the global perspectives：大阪大学〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

年1回の国際シンポジウムおよび国際教員会議をオンラインで開催し、単位の相互認定、成績管理、短・中期交流学生への修了証発行等に関する協議・確認を行った。さらに、交流プログラムの自己評価と継続的な質の向上を図るため、参加学生からの意見聴取・自己評価、担当教員によるレビュー・評価を実施した。また大学間での協定更新を行い、引き続き大阪大学全体ではGPA制度の導入と共に、履修状況の客観的な把握、世界基準に則った評価制度の整備・運用を進めている。また、国際公募ガイドラインを策定し、外国人教員の積極的な採用と、各部局でのファカルティデベロップメント（FD）を継続している。



〈学生によるグループワーク発表
大阪大学〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

大阪大学キャンパス・アジア（以下CA)事務局では、英語・中国語が堪能な教職員を配置しており、派遣・受入学生に対して準備期間を含めた留学期間において面談やメール等できめ細やかな個別サポートを行っている。また、中国、韓国のCA事務局および担当教職員との密な連携・情報共有により、学生への充実した学習機会の提供と安全管理を継続している。大阪大学では医学系研究科の基礎・臨床・社会医学22講座の研究分野が連携した留学プログラムの協力体制を構築し、受入学生の学習・研究ニーズに応じた学習環境の整備を進めた。また、e-learningシステム等を活用しつつ、オンラインワークショップを通してコロナ禍においても国際交流の機会を確保した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本学主催のもと、北京大学・延世大学校・清華大学・上海交通大学・天津中医薬大学の6大学でのオンラインセミナーを開催した。英語による医学・公衆衛生学分野の17講義に加え、参加学生は8グループに分かれ講義研究についてディスカッションとグループワークを行った。学生によるプレゼンテーションに対して参加校の教員による学生指導・評価を行う等、日中韓のコンソーシアムによる、医学研究のグローバルリーダー育成に向けた組織的な取組を行ってきた。国際シンポジウムでは、各大学のプログラム5年間の成果発表を行い情報共有を行った。毎年恒例の、本プログラムで留学経験のある日中韓の学生の教育・研究交流を目的とした同窓会をオンラインで開催し、留学経験者たちによる研究発表とディスカッションが行われた。今後も、活発な交流が期待できる。

■ グッドプラクティス等

日中韓の各大学参加による国際教員会議やWeb会議等により、DDPに関する単位互換や成績管理、シラバス等の協議・合意形成を行い、質の保証を伴う大学間交流の枠組形成がなされた。加えて、本プログラムの人材育成像に合致したコアコンピテンシーを策定し、これを満たすための学習支援体制・研究環境の整備・拡充を進めた。平成29年度に発足した同窓会交流を促進し、国際的な人的ネットワークの充実・拡大を進めた。